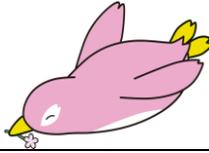




中台中学校

中台だより 第11号



発行 板橋区立中台中学校

発行日 令和8年3月18日

さくら草学びのエリア 中台中学校・中台小学校・若木小学校

*「中台中学校だより」は中台中学校のホームページにも掲載しています。

9年生 卒業おめでとう！

校長 宮澤 一則

いよいよ3月19日(木)に9年生が卒業します。中台中学校に入学してから、3年間で618日の登校日がありました。少し大きめの標準服に身を包み、不安と期待に戸惑うような表情で入学式に出ていましたが、呼名されると大きな声で返事をしてくれたことを思い出します。中学校に入ってから、初めての宿泊行事である富士見高原移動教室では、生徒数が多いので部屋の確保に苦労しましたが、みんなで楽しく過ごすことができました。

8年生では、職場体験や鎌倉校外学習などの行事がありました。職場体験では、事前にマナー講習を行ったり、事業所に事前訪問を行ったりしました。生徒たちだけで行動することがほとんどなかったので、かなり緊張している様子が伝わってきました。鎌倉校外学習では、事前に立てた計画を必死になって実現しようと頑張っていました。

そして、最後の9年生では、中台中学校の最上級生として、立派に振る舞ってくれました。朝礼の時の整列、委員会や部活動でのリーダーシップ、後輩に手本となるべく、しっかりとした生活をしていました。特に運動会や合唱コンクールのような行事では、圧倒されるような迫力で、見ている者に感動を与えてくれました。まさに中台中学校の「一生懸命はカッコいい！」を身をもって示してくれたのです。これらの姿は、後輩が必ず引き継いでくれるはずです。修学旅行でも、大阪万博に行ったり、京都・奈良の歴史に触れることができたり、いい思い出になったと思います。大阪の串カツも美味しかったですね！たくさんの思い出をお土産にできた修学旅行でした。

これらの行事以外にも、3年間でいろいろなことを学んだと思います。いつもいいことばかりではありません。困ったときや悩んだときもあったでしょう。友達と意見がくい違ったこともあったでしょう。そんな時に、なんとか解決してきたことはこれからの将来に必ず役立つでしょう。また、行事ではみんなの力を合わせて、大きな力を発揮してくれました。泣いたり、喜んだりした経験もあるはずです。学校では、勉強も大切ですが、ほかの人たちと触れ合いながら、一緒によりよく生活していく方法を身に付けることも重要です。いろんな考えをした人たちがたくさん学校に集まってきます。社会の縮図といってもいいでしょう。中台中で過ごした3年間は、人生の中でも重要な部分だったと思います。大人になって、中台中で過ごした経験が活かされることがあれば嬉しく思います。

今までお世話になった家庭の人たち、地域の人たち、先生や友達への感謝の気持ちも忘れないでください。

これからは、それぞれが自分で選んだ道を歩んでいきます。元気にたくましく成長してくれることを祈っています。

君たちと一緒に過ごすことができ、楽しかったです。



第38回 さくら草まつり!

3月1日(日)に若木小学校を会場として「第38回 さくら草まつり」が開催されました。当日は暖かな日で、来場者も例年より多い気がしました。今回も、近隣の小中学校などが育てたさくら草が、春の訪れを教えてくださいましたが、今年の猛暑でさくら草の生育が難しく、この日を迎えるにあたって各学校は大変苦労しました。中台中のさくら草も、はじめは順調に育っていましたが、暑さの影響で葉がしおれてきて、あらためて育て直すことを余儀なくされました。それでも、なんとかきれいな花を咲かせてくれたので、「さくら草まつり」に間に合いました。中台中学校が「さくら草まつり」に提供したさくら草は、卒業式や入学式に飾る予定です。

「さくら草まつり」には、毎年中台中の生徒が活躍してくれます。オープニングセレモニーでは、吹奏楽部が乗りのいい曲を演奏してくれたので、場を盛り上げてくれました。また、ジュニアリーダーも楽しいゲームを実施して、子どもたちに大人気でした。中台中で募集したボランティアとしては「支え合い会議」のPR活動がありましたが、13名の生徒たちが協力してくれました。「さくら草まつり」は中台・若木地区の大きなイベントです。中学生も地域の一員なので、協力できることは、積極的に貢献してほしいと思います。PTAの方々も、「焼きそば」の製造・販売をしていましたが、買うための長い行列ができていました。



三遊亭わん丈さん 落語教室!

3月12日(木)に三遊亭わん丈さんをお招きして、PTAの協力により落語教室を開催しました。三遊亭わん丈さんは、毎年中台中に来てくれて、今回の落語教室は12回目となります。江戸時代の庶民の生活や文化などを楽しい落語をとおして教えてくださいます。また、登場人物から人情や優しさも感じることができます。落語教室では、落語の聞き方なども教えていただきました。噺家さんが来場したら、1回目に大きな拍手出迎え、座布団に座るときに2回目の大きな拍手をするそうです。この際に「待ってました!」「たっぷり!」などの掛け声をするので、噺家さんと観客が一体となって、盛り上がるそうです。「たっぷり!」というのは、「たっぷり」と話を聞かせてほしいという意味だそうです。噺家さんが使っている道具は、センスと手ぬぐいだけで、扇子は「筆」「刀」「箸」などに変化し、手ぬぐいは「紙」「本」などになります。わん丈さんが、この道具を使うと本当に「刀」が見えてきて、長い刀か短い刀かなども区別ができます。さらには、噺家さんの仕草で、走ったり、歩いたりの違いも伝わってきます。座布団の上だけで、長屋の雰囲気や何人もの登場人物が見えてきます。話や仕草から、情景が浮かび上がってくるのは不思議なことで、日本の伝統として伝わっている理由が分かった気がします。



7年生は3時間目に「牛寝め」を聞きました。与太郎という落語では数多く登場する、少し足りない人物が主人公です。初めて落語を聞く7年生には、ちょうどいい落語で、わん丈さんも生徒の様子を見て決めてくれたと思います。8・9年生は「文七もつとい」という落語で、お金を盗まれたと勘違いした番頭さんに左官の長兵衛さんが、娘さんが自分と引き換えに得た、なげなしのお金をあげて助ける内容で、笑いあり、人情ありのお話でした。この話は、「江戸っ子」を理解してもらうためにつくられた落語であることも教えていただきました。

三遊亭わん丈さんは、2年前に真打ちになり、先週の木曜には上板橋第二中で落語を披露した後、静岡、北海道と回ってきた翌日に中台中に来てくれました。多忙の中、中台中に来ていただき感謝しております。

(ちなみに「三遊亭わん丈」とめくりの題字を書いたのは、中台小の先生です。)